

マンスリー・ヘルシートピックスのコーナーをリニューアルしました！ここでは、掲載月にこだわらずに、私達が“お知らせしたい事・話題のトピック”などを紹介しています。日比谷診療所・女性医療スタッフ（薬剤師・看護師・歯科衛生士）が、交替での投稿となります。7月は、薬剤師による投稿です。

全国に広めよう“認知症サポーター”の輪

先月は、東京都における認知症施策の推進について、高齢者を取り巻く状況と共にお知らせしました。

今回は、認知症の方々を地域で見守る“認知症サポーター”についてご説明します。現在、**認知症サポーターキャラバン**の活動が全国に展開されています。これは、認知症という疾患を理解し、その本人や家族を見守るという、**認知症サポーターを全国に増やすことを目的とした活動**です。皆様が安心して暮らせる街づくりを目指しています。

認知症サポーターについて

認知症についての正しい知識を持ち、認知症の方やご家族を温かく見守る応援者のことをいいます。認知症サポーター養成講座（1時間～1時間半の講義）にて、以下の内容を履修し、認知症サポーターとなります。

《認知症サポーター養成講座の項目》

- 認知症という疾患を理解する
- 認知症本人の気持ちを理解する
- 認知症の介護者の気持ちを理解する

認知症サポーター養成講座は、住民向けに各都道府県・区市町村・企業・各種団体・小中学校などにおいて開催されています。詳細は、住居地の区市町村高齢福祉主管課（認知症担当窓口）、あるいは、全国キャラバン・メイト連絡協議会ホームページ（全国の事務局）から調べることができます。

認知症サポーターキャラバンとは

2015年1月、厚生労働省は、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を関係11府省庁と共同で策定しました。その中で、2017年末までに、認知症サポーターを800万人にする目標を掲げています。



全国キャラバン・メイト連絡協議会ホームページのご案内

以下のURLから認知症サポーターの養成状況や、**キャラバン・メイト**の詳細を知ることができます。

* <http://www.caravanmate.com/aboutus/>

キャラバン・メイトとは、認知症サポーターを養成する**認知症サポーター養成講座**を開催するに当たり、講師を務める方をいいます。キャラバン・メイトになる為には、所定のキャラバン・メイトの研修を履修し、登録する必要があります。

認知症サポーターキャラバンのホームページ画面



サポーターの証：オレンジリング

認知症サポーター養成講座を履修すると、認知症サポーターの目印となる**オレンジリング（プレスレット）**（右イメージ）が手渡されます。

このリングは、“認知症の人を応援します”という意味表示になります。例えば、街中で、認知症かもしれない方に遭遇し、声を掛ける際、このオレンジリングを見えるように身に付けることで、周囲に“認知症の支援”が理解されます。



但し、この活動が、全国の皆様に周知されることが大前提となります。

認知症サポーターの役割

認知症サポーターの役割は、何かを特別にするものではありません。自分のできる範囲の活動を行えばいいのです。例えば、以下のように活動内容は、様々です。

- 友人や家族にその情報・知識を伝える
- 認知症になった人や家族の気持ちを理解するように努める
- 隣人、あるいは商店・交通機関・街中において、できる範囲で手助けをする

また、地域のリーダーとして、サポーターの中から街づくりの担い手が育つことも期待されています。

とうきょう認知症ナビのご案内

東京都は、東京都福祉保健局のホームページ内に**とうきょう認知症ナビ**のコーナーを開設しています。以下、リンクよりご覧ください。

* 東京都福祉保健局のホームページ

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

* とうきょう認知症ナビ

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchishou_navi/index.html

当該ホームページの“研修・行事・講座”ページに、認知症サポーター関連の研修やイベント等が案内されています。

とうきょう認知症ナビ「研修・行事・講座」のホームページ画面



若年性認知症について

65歳未満で発症する認知症を**若年性認知症**といい、全国で4万人近くいるといわれています。若年性認知症の人は、就労や生活費等の経済的問題が大きいことから、居場所づくり等、様々な分野にわたる支援を総合的に講じる必要があり、新オレンジプランに組み込まれています。

東京都では、**東京都若年性認知症総合支援センター**を開設し、就労継続・介護・年金等の相談に応じています。また、地域包括センター等の関係機関と連携し、地域での生活支援を行なっています。以下、センターの詳細です。

① 東京都若年性認知症総合支援センター

所在地：目黒区碑文谷、電話：03-3713-8205（平日午前9時～午後5時迄）

② 東京都多摩若年性認知症総合支援センター

所在地：東京都日野市大坂上、電話：042-843-2198（平日午前9時～午後5時迄）

旬なトピックを提供！日比谷診療所だより 7月号

詳細は、以下、とうきょう認知症ナビ [若年性認知症総合支援センター](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchishou_navi/kisochishiki/ja/kunensei/jakunen_center/)にて、紹介されています。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/zaishien/ninchishou_navi/kisochishiki/ja/kunensei/jakunen_center/

おわりに

認知症の方が利用する、あらゆるロケーション（医療機関・調剤薬局・郵便局・銀行・店舗・交通機関、他）や住居地での交流の場に、認知症サポーターが存在する事は、どれ程、心強いものでしょうか。

この活動は、超高齢社会において、地域の方々が一丸となり温かい支援のある街づくりを目指すものです。どなたでも参加できます。皆さんもこれを機に、高齢者ばかりでなく、何かしらのお手伝いが必要な方への理解を深め、支援する、やさしい街づくりに参加しませんか。

なお、2017年3月現在、全国において、8,829,946名が認知症サポーターに登録しています。

